

Tokyo University of Technology

# School of Design



東京工科大学デザイン学部

# 東京工科大学デザイン学部は デザインは実学であることを大切に考えます。

デザインは生活の質を高めるための企画と生産思考と技術です。この方針にたった実践的な学びの中で物の見方や考え方、そして幅広い知識とセンス、役立つスキルを高めます。こうした実学としてのデザイン教育の中で身につけた「集中力」「提案力」「実現力」「取材力」「発想力」「チーム力」を、創造性とチャレンジ精神をもって企業の中で活かせる意欲的な人材を育成します。これらの能力は、企画や開発の仕事や営業にも役立つものであり、これからは幅広い職種で求められるでしょう。



デザイン学部の学びで身につく6つの力

## 集中力

モチベーションを高く保ち、自分の手を動かし何度も試しながら繰り返し考え抜く。客観的な視点を失わず、目の前にあることに全力を尽くしながら、そこから一步離れて観察することのできる集中力を身につけます。

## 提案力

全ての制作で必要とされるプレゼンテーションでは、伝えるための分かりやすさだけでなく、「伝える姿勢」まで視野に入れます。相手の関心を探り、理解し、それに対して提案するという意識を、実践的に学びます。

## 実現力

ものごとを実現するには、問題解決のためのポイントを洗い出し、対策の検討を行うとともに、計画的でありながらも柔軟な姿勢が必要です。個人の能力に加えて、多様な価値を認めることのできる強いリーダーシップ力の大切さを学びます。

## 取材力

先入観にとらわれず、丹念に観察することから始めます。自分の足でその場に赴き、自分の眼で確かめ、じっくりと人の話を聞くこと。そこから発見した課題や関係を分析すること。それを取材力の基本としています。

## 発想力

普段から問題意識を持ち、その源となる多様な引き出しをたくさん用意すること。広い視野を持ち、自分の切り口で組み合わせること。デザイン制作を通して、そのプロセスを繰り返し経験することで発想力を鍛えます。

## チーム力

グループ制作では、意見をまとめ、それぞれの得意分野で作業を分担しながらもお互いの状況を把握し、方向性を常に振返る。そして1+1が2以上の力を発揮できるように環境を作っていく、組織の中で仕事をするために必要なチーム力を学びます。

# 社会で活躍できる力を養う デザイン学部の学び

3・4年次

1年間に4期に分けた「クォーター制」を採用。幅広い視野を養うために1クォーターずつ視覚、映像、空間の3つのデザイン分野を学び、第4クォーターから希望するデザイン分野を選択します。

## 視覚と伝達コース

グラフィックデザインを中心とした手法と技術を身につけます。紙媒体におけるエディトリアルデザイン、Webデザインやデジタルサイネージなど、インターネットやデジタルメディアの特性について学び、社会におけるコミュニケーションとしてのデザインを提案できる人材を育成します。

演習風景：  
「ロゴマークのデザインおよびデジタルサイネージの提案とWebデザインへの展開」

設定された条件の中で、取材した内容や情報をどのようにひとつにまとめるのか、受け手の視点に立って発想する力を身につけます。



## 映像と構成コース

情報ツールとしての映像表現の手法と技術の習得を目指します。CM・プロモーションビデオ・Webコンテンツ・CG制作の企画(絵コンテ)・提案・演出(撮影)・編集・仕上げ・発表までをトータルに学ぶことで、多岐にわたる映像メディアにアプローチできる力を身につけます。

撮影技法の演習風景：

グループワークを通じて一連の技術を身につけるだけでなく、チームの一員としての立場や、ディレクターとしてのリーダーシップの重要性を学びます。また、ひとつの課題に向かって共同作業で実現する力を身につけます。



## 空間と演出コース

住居や商業施設、公共スペースを中心としたインテリアからディスプレイまで、デザインの背景を考えながらフィールドワークなどを通して空間表現の発想力と提案力を養います。専門知識だけではなく、プロジェクト全体をリードする幅広い視野とチームとして仕事を達成するための協調性も学びます。

演習風景：  
「実在する都市における空間・プロダクトの提案」

取材から発見した問題意識をもとに解決するための調査と発想を繰り返し、自分の考えを提案する力を身につけます。



2019年3月に第一期生が卒業する「工業デザインコース」は、インテリア・ディスプレイ・空間演出について学ぶ「空間デザイン専攻」と、車両、機器・家具・雑貨などプロダクトデザインを学ぶ「工業デザイン専攻」で構成されます。

東京工科大学デザイン学部の特徴は、美意識を育む感性演習とデジタルを中心としたスキル演習を融合させた、独自のデザイン基礎教育と実践的な専門教育にあります。フィールドワークや学外プロジェクトへの参加など、実践的な学びを通して「デザイン学部の学びで身につく6つの力」を養います。



1・2年次

## 感性演習

豊かな感性は、豊かな表現力につながります。デザイン学部では、「描く」「つくる」を造形基礎、「伝える」「関係づける」をデザイン基礎と位置づけ、さまざまな課題制作を通して、自らの力で感じ考え、手を動かしながら考察するための演習を数多く行ないます。集中力を養い、発想する力を育みます。



2・3年次

## スキル演習

感性演習で養った造形とデザインの基礎をもとに、コンピュータによるデジタル表現技術や専門分野に進む際に必要なスキルを学びます。グラフィック系、Web系、映像系、空間シミュレーション系ソフトの操作の習得や、プログラミング、サウンドデザイン、撮影技法といったメディアで表現をする上で欠かせない表現技術を学びます。



# 社会で活躍する卒業生の声

## Voice of graduate student



高橋 浩太 <2014年3月卒業>

所属企業：株式会社プラスディー  
第一事業本部デザイナー

大学では、様々な側面からみたデザインの考え方を学び「目的意識を持って提案する力」を養うことができた実感しています。実学に基づくカリキュラムでは、幅広い表現手法を学びながら、実際の生活や社会に関係した課題に向き合っていくことで、自分のアプローチの幅を広げることができました。無数にある解決方法を俯瞰して分析し、「目的に最適な表現」を自ら選択していく環境だったからこそ「自分の意見や独自の視点を持って物事を捉える」という習慣ができました。そのような視点は、現在のプロモーション施策を制作する現場において、表層のデザインにとらわれることなく「目的意識を持ったデザイン提案」へと繋がっています。

画像：担当した仕事の一例「ちゃんこ屋 鵬-HO-」のwebサイト



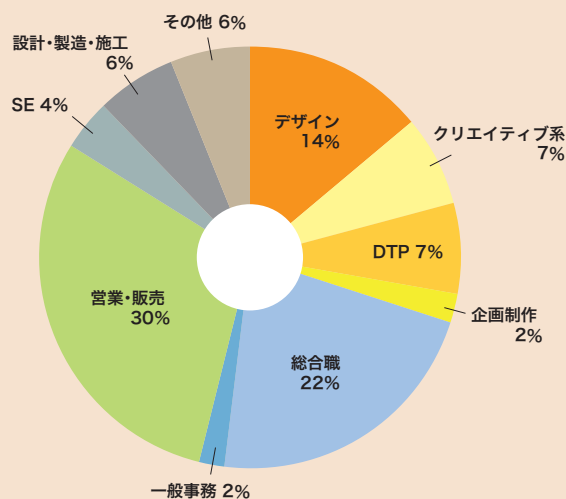
向後 佳苗 <2016年3月卒業>

所属企業：株式会社サイバー・コミュニケーションズ  
ストラテジー・ディビジョン（総合職）

デザイン学部では、デザインの様々な分野の表現手法や手段を学びながら、多くの視点で物事を考えることを知りました。作る側の立場、使う側の立場だけではなく、時にはデザイナーに発注するクライアントの立場までを考えて制作することが必要です。また、多くのグループワークや友人関係を通して、自分の考えだけにとられない力を身につけることができました。現在はインターネット広告の運用に携わっています。自らモノづくりに関わる仕事ではありませんが、日々の提案やプロジェクトには、このデザインの思考が活かされていると感じます。

2014年3月に第一期生が卒業して以来、毎年希望者の93%近くが就職しています。さまざまな業種、専門職から総合職まで幅広い職種への就職となり、本学デザイン学部がめざす「デザイン思考」を身につけた学生たちが、社会へと巣立っていきました。社会は大きく変化しています。専門的な技術や知識とともに、ひとつの専門領域にとらわれることのない広い視野と柔軟な発想力も同時に求められています。東京工科大学デザイン学部では、学生一人ひとりがクリエイターの基礎となる感性を育み、表現手段としてのスキルを身につけ、「視覚」「映像」「空間」といった専門分野を横断して学ぶことで多彩なデザインの要素を融合させイメージをカタチにしていく思考力を自分のものにすることが目標です。デザイン専門職にとどまらず、企業総合職として実力を発揮できる人材を育成します。

デザイン学部就職委員会



93.33% (2016年3月卒業生実績)



東京工科大学デザイン学部

〒144-8535 東京都大田区西蒲田 5-23-22

蒲田キャンパス キャリアサポートセンター

TEL: 03-6424-2121

FAX: 03-6424-2112

E-mail: jm-kmqjin@stf.teu.ac.jp

URL: http://www.teu.ac.jp